
論文シリーズ

脳好き人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

論文シリーズ

【Nコード】

N7615Y

【作者名】

脳好き人間

【あらすじ】

論文シリーズ始めました。

へビーな内容からライトな内容まで、色々思いつきをかたっくるしく述べてみました。
予め言っておきます。ごめんなさい。

争いをなくす方法について

私は考えた。争いをなくす方法について。

人は皆、争いをする。人類の歴史は長いが、人が争わなかった時代など無いのだ。

その原因を追究してみるとしよう。と、言ったものの、答えは追究するまでもない。遺伝子だ。本能だ。そもそも昔は狩りをすることで生計をたてていたのだから、戦いたい、という願望が泣ければとつくの昔に人類は滅んでいるだろう。

近年では平和主義者、なる者が出てきているが、その者達も軽い争いなら経験したことがあるはずだ。生まれた時から誰とも争わないうような人格を持つていたとすれば、それは人間失格である。闘争心は向上心にもなる。現代社会において、向上心がどれだけ大切なものかはわかるだろう。

要約すると、人間は皆争いたい、という欲求を持っており、そしてそれは必要不可欠なものなのだ。

それをふまえた上で、世界から争いをなくす方法を三つ示す。
一つ目に、軍事力を持つ国が世界を支配し、法で争いを取り締まる、という方法が挙げられる。

しかしそれには問題点が二つあり、一つ目に、現状で一つの国が世界を支配するのがほぼ実現不可能なこと。二つ目に、争いをなくすには、相当厳しく争いを取り締まらなければならず、更に現時点で一定の年齢に達している者のほとんどがその対象になるため、現在の社会機能はほぼ停止する。

簡単に述べると、実現は不可能である、ということだ。

二つ目の方法は、技術を進歩させ、現在人間が行っている仕事を全て代わりにやっってもらう、ということだ。

悪く例えるなら、現在乳牛は人間に飼われることで役に立たなくなるまでの安全な生活を保証されている。

つまり、人間が機械に飼われればいいのだ。

しかし、現在一定の地位にある人は、人間が飼われることなど絶対に許せないだろう。

やはり、この方法も実現不可能だ。

これまで挙げた二つの例は、ほぼ実現不可能であった。しかし、今から挙げる最後の例は実現可能、いや、非実現不可能である。

つまり、人類が滅べば良いのだ。そうすれば争いなど起こしやうがない。

と、言ったものの、人類が自ら滅びようなどするはずがない。よって、この方法は不可能のように思われる。

しかし、現在地球は環境問題に曝されている。このままだと、いずれ地球は人間の生きることが不可能な場所になるだろう。

また、現在の科学力なら、地球を滅ぼすことなど簡単である。もしも先進国が昔のような戦争を始めたら、地球はすぐに滅びるだろう。

要するに、人が争いをなくすには、現状維持、争いをする、という二つのいずれかを実行すればよいのである。

争いをなくす方法について（後書き）

というか、次に氷河期が来たら普通に作物育たなくて滅ぶような…

…

「兄さん」と呼ばれる方法について（前書き）

注意です。これは人によっては本格的に引く可能性が高いです。
ごめんなさい。

「兄さん」と呼ばれる方法について

僕が考えた、兄さんと呼ばれるための方法を挙げます。しかしその前に前置きを。

現在兄である人は既に、兄さん、兄ちゃん、等と妹、弟に呼ばれて呼ばれているでしょう。

しかし、兄ちゃんと呼ばれている人で、本当は兄さんと呼ばれたかった。という人も大勢いるはずです。逆もまた然り。しかし、妹や弟に「俺、お前に兄さん（兄ちゃん）って呼ばれたいんだ！」とか言いにくい人が多いはずです。

ですが、妹や弟など欲しいと思っただら簡単に現れるようなものではありません。また、知らない人にいきなり「俺のことをお兄ちゃんと呼んでくれ！」とか言ったりしたら多分不審者だと思われるでしょう。

そこで、『下手な鉄砲も数撃ちや当たる作戦』です。

おっと、本題に移る前に言っておきます。この作戦は、現在兄でなく、純粹に「兄さん」と呼ばれたいんだっ！という人にもオススメです。また、「お姉ちゃん」って呼ばれたい女性の方でも大丈夫です。

では、本題に入ります。

まず最初に、想定される呼ばれたいパターンが多すぎるため、筆者の願望より、「兄さん」という例で統一します。また、妹、弟の両方に当て嵌まる部分も、ここでは妹、と表記します。

一つ目の方法。既に妹か弟がいる方は、辛抱強く妹、弟が結婚するのを待つ。

この場合、「お兄さん」と呼ばれる可能性が高く、「お兄ちゃん」願望の方は諦めざるをえません。

二つ目の方法。親が離婚し、再婚相手の子供に「兄さん」と呼ばれる。

この場合、親の再婚相手を見極める必要があります。最善の方法は、離婚時、父、母のどちらの子になるかを決めるのを戸惑っているふりをして時間を稼ぎ、自分より年下の子供を持った人と再婚しようとしている方の子供になることです。

親が子持ちと再婚するのを嫌がっていた場合、次の事柄を挙げて説得します。

再婚相手がそれまで未婚だった場合、結婚経験者である場合よりも人格に問題がある可能性が高い。

再婚相手が結婚経験者である場合、子持ちの人は子供に信頼されていたということであり、人格が良い可能性が高い。逆に子持ちでない、子供に信頼されていなかった可能性が高いため、人格に問題がある可能性が高い。

また、親を説得するときのコツですが、なるべく簡潔に、論理的に、真摯に、の三つを守りましょう。

中途半端な説得を長々としてしまうと、逆効果です。義妹、義弟が出来ない相手と再婚される可能性が上がります。危険です。

また、最終手段としては、両親が仲良しの場合でも片親の場合でも、素直に「父（母）さん、俺、妹が（もう一人）ほしいんだ」と言うという方法があります。あまりオススメ出来ませんが。

僕の家は父子家庭ですが、実際に言ったことがあります。「お父さん、俺、本当は妹に「兄さん」って呼ばれたかったんだ。でもそんなこと妹には言えない。だから、俺より年下の女の子がいる人と再婚してくれ！」

三つ目に、自分の魅力に自信のある場合、恋人をつくり、「兄さん」と呼ばせましょう。これは余程自信がある人にしかオススメ出来ません。

四つ目に、自分の苗字を変え、にい、と読む名前にしましょう。そうすれば、もはや皆から「にいさん」と呼ばれます。しかし、「にいちゃん」と呼ばれたい方や女性の方はこの方法は使えません。というか、この方法は限られた人しか使えず、さらに成功しても所

詮「兄さん」ではなく「にいさん」なので、オススメ出来ません。

五つ目に、弟分、妹分を作る、です。

仕事、趣味などで何か自信のあることがあれば、この方法が使えます。しかし、苗字にさん付けで呼ばれてしまう可能性が高いです。

最後に、年下（出来れば下の兄弟の友達）の友達を作る、義兄弟の契りを結ぶ、そういった趣旨の宗教に入る（又は自分で立ち上げる）、そういった店に入る。等の方法があります。

様々な方法を挙げましたが、人間死ぬ気になれば呼ばれたいと思う呼ばれ方をするなど容易です。何かを捨てれば何かを得るのは当然だからです。しかし、メリットよりデメリットが大きくなつては頑張りも無意味。自分の願望の強さに合わせた行動をとりましょう。

「兄さん」と呼ばれる方法について（後書き）

僕にはよくわかりませんが、これらを実行すると何かしら問題が生じるかもしれません。

というか、「兄さん」と呼ばれたい願望ってメジャーな願望なんですかね？

人類の進化について（前書き）

いやあ、祝日っていいですね。毎日が祝日だといいいのに。

今回は、僕の専門外、というか、普通科高校の生徒であり、普通科
大学志望、将来は普通のサラリーマンになるつもりである僕に、専
門も専門外もないとは思いますが、多少間違った内容が含まれるか
もしれません。ごめんなさい。

人類の進化について

私が考えた、人類の進化について、述べる。

近年では、DNAによる犯罪捜査によって、DNAの知名度は上がり、皆に知られるようになった。だが、その内容を詳しく知る者は多くはないため、念のために示すが、私が伝えたい事とはあまり関係が無いため、飛ばし読みしてもらっても構わない。

DNAとは、又クレオチドの重合体である核酸である。また、又クレオチドの重合体である物に、RNAという物もある。DNAは主に核の中の情報の蓄積・保存の役割を担い、RNAはその情報の一時的な処理を担っている。蛇足だが、又クレオチドやその結合体であるポリヌクレオチドは生物を原料とするほとんどの食品に少し含まれている。また、その中でもグアニル酸(GMP)、イノシン酸(IMP)は呈味性ヌクレオチドと言い、旨味を持ち、また、L-グルタミン酸ナトリウムと組み合わせることで、旨味が強まる効果がある。食品には欠かせない物である。

ここまですが前置き、ここからが本題である。

DNAは親から子に伝わる時、変異が起こり、新しい形質が付け加えられる。だが、このDNAは大昔から殆ど変わってはいないのだ。また、ヒトとサルの遺伝子の差も、殆ど違わない。

生命の設計図とまで言われているDNAが、殆ど昔から変わっていないのであれば、人類は本当に進化してきた、と言えるのだろうか。

確かに現代の人間は、昔の人にはとても真似出来ないような技術を持っている。だが所詮、昔からの積み重ねであり、酷い言い方をすれば、サルに条件付けの方法を使い、機械を作らせているのと同じような物である。

条件付けとは、動物に芸をさせ、成功するとエサを与える、といったことだ。皿回しが出来たら機械を作ること也不可能ではない

だろう。

話を戻すと、本来遺伝子とは、より優れた子孫を残すために存在しているのである。

人間は相当前から頭の良い人間が生存競争に勝ちやすい環境におかれているというのに、時代が進む程頭が良くなるという話を聞いたことがない。むしろその逆の話ばかり聞く。

動物の中には、メスの気を引く為だけに、無意味に角を発達させたり、無意味に無駄な機能を持っているものもいるのに。まあ、それでも遺伝子は殆ど変わっていないのだが。

これから先、相当な未来では地球の環境の変異により、遺伝子が大きく変化することもあるかもしれない。だが、私はそうはならないと思う。何故なら、そんな環境の変異が起こるよりも先に、人類が滅びているだろうからだ。

まとめると、遺伝子は大きく変わって来なかったが、これからも大きくは変わらない、ということだ。

以上でこの論文は終わりである。

これから先は、あくまで私的な内容を示す。

一人の脳好きとしてこれらの事象を考えると、遺伝子があまり変わっていないことは当然だ、と思う。

近年、少子高齢化が問題になっていて、老人の多くが、老化による脳の衰退を不安に思っていることだろう。

認知症になっけししまい、親戚もおらず、他人に介護されるケースも多い。まあ、下手に素人が介護するよりは専門家に任せの方が良いだろうが。

とにかく、そういった老化による脳機能の低下がある。

たが、その脳を調べてみると、全体と比べると、僅かな量しか脳細胞は減っていないのだ。

脳に現れるわずかな違いでも、その人にとっては大きな違いを感じることであろう。ヒト、いや現代の生き物は、とても複雑に出来ているのだ。

つまり、遺伝子を見て、大きな違いがなくても、実際には大きな違いが表れているのかもしれない。

最後に、人類滅亡説という物があり、太陽の極大期が二千十二年にきて、太陽の磁気により人類が滅びる、と聞いた。それが本当に起これば、長い生物の営みも呆気なく終わってしまうのだから、良い資料になりそうでもあるので、恐れ半分、期待半分、である。

人類の進化について（後書き）

どうせなら受験の前に滅んでくれよ。

TPP参加、について（前書き）

今更ですが、一人の脳好きとしての話では一人称は私、一人の変態としての話では一人称は僕、です。

TPP参加、について

先に述べておくが、私は政治に詳しくない。少し小耳にはさんだことをまとめてみただけであり、これが正しいとは限らない。

現在、TPPに参加、不参加で議論が行われているが、TPPに参加の場合のデメリットについて聞いたことを、述べる。

日本の医療制度は、世界でもトップレベルであり、お金がない者でも平等に医療を受けることが出来る。

よく、悲劇もの話で、海外でないと受けられない手術を受けないと死んでしまうが、そのためのお金がないため、受けられず、困っている。といった話がある。

結果、それを哀れんだ人による募金でハッピーエンド、といった結果になる場合が多いが、現実では医療を受けられずに死んでしまうパターンが大多数だろう。

TPPに参加した場合、医療制度がアメリカ式に変えられてしまう可能性が高い。つまり、医療費が高くなる。

金儲けを重視する病院が生き残り、患者優先の病院は潰れてしまう。

まあ、現在の優秀で且つ金を持たない人への治療にうんざりしている医者にとっては喜ばしいことかもしれないか。

また、私が最も恐れているのは、急病で倒れた人を見つけてしまった場合だ。

もし救急車まで有料になってしまえば、救急車を呼ぶことで逆に怒られてしまうかもしれない。私のような小心者は、その可能性を恐れ、救急車を呼べないだろう。結果、一人一人が命を失うことになったとしても。

本当にこのようなことになってしまいかは定かではないが、こういった可能性を唱える者も多にいる。つまり、この件は無視してよいものではないだろう。

また、優秀な医者、優秀な設備で治療を受けるほど、治療費は高くなる。

現在日本人の平均寿命は上がり続けているが、平均寿命が下がる日があるかもしれない。金がなければ治療が出来ないのだから。

いずれは、所得による平均寿命の差、のような資料を得ることが出来るかもしれない。

ここまでデメリットを述べてきたが、ここからはメリットを述べる。金がなければ医療を受けられないメリットを。

おそらく、知っている人の誰かが医療を受けられずに死ぬことで、金を稼ぐことに対する意欲が増えるだろう。

そうすることで、皆が必死に働き、経済が活発になるかもしれない。

これは、就職氷河期など言われ、未来を不安に思っている私のような生徒、学生にとっては喜ばしいことかもしれない。いや、ライバルのやる気が増えれば、やはり困るかもしれないが。

最後に、この場合に起こるデメリットを述べる。

大切な人に医療を受けさせる金が無く、犯罪を起こす可能性が高い、いや、確実に起こることだ。

例えば、日々を真面目に生きているつもりの人、それは誰か大切な人に『良い人』だと思われたいからであり、その大切な人が医療を受けられずに死にそうであれば、簡単に犯罪に手を染めるだろう。

また、それらの大切な人が死んでしまった場合、真面目に生きる意味がなくなり、安心して犯罪を犯す。『良い人』を演じる必要がなくなるのだから。

私は大切な人に死なれたことが無いため、本当にそうなるかはわからないが、事故で大切な人を亡くした人いわく、事故の相手に子供がいなかったら、殺していたかもしれない、だそうだ。

色々述べたが、こうしてみると、日本が海外と比べて治安が良いのは、現在の医療制度のおかげだったのかもしれない。

よって、これから先、通り過ぎる人皆が拳銃を持っているような未来も遠くないかもしれない。

読者の方で、もしもそんな状態になったら怖くて生活できない。という人がいれば、スウェーデンに移り住むことをオススメする。確かガムを持ってたくらいで取り締まられる、大変治安の良い国だったはずだ。

ここで述べたことは正しくない可能性が高い。人は大切な人が死んだくらいで動揺しないかもしれないし、良い人は良い人を演じているのではなく、本当に良い人なのかもしれない。医者は金のない人も救ってくれるかもしれないし、救急車を呼べば感謝されるかもしれない。そもそも、TPP参加、不参加すらまだ決まっていないのだ。未来など誰にもわからない。

私が伝えたいことは、情報を知り、自分の意見を各自で持つことが大切だ、ということだ。

また、一つの情報源にとらわれ、先入観、偏見を持たずに知る、ということが大切だ。人にはそれが欠けている傾向が見られる。

医療の進化について（前書き）

医療に携わる仕事をされる方が読むと、テンション下がるかもしれません。

け、決して悪気があって書いたわけではありませんよ！

医療の進化について

まず初めに、この論文は医療を否定する物ではなく、一介の無知な人間としての考えを述べたものである。

現在、医療技術は進歩し、ガン等の昔は不治の病とまで言われていた病気を治すことが出来るようになった。

これは素晴らしいことであり、多くの人が命を救われている。だが、ここで一つの疑問が生じる。

生物とは、より生存競争に勝てる者が遺伝子を遺すように出来ている。だが、医療の進歩により、ガンになりやすい者も健康な者のように生き残ることが出来る。結果、これから先には今までよりも多くのガン患者が現れるようになるのではないだろうか。

また、医療の進歩により、逆に人間そのものの免疫力が落ちていくように感じることも多い。

短かったが、資料不足のため、これで終わる。

効率の良い勉強方法について

今回は、昔、師から聞いたことのうる覚えであるため、所々間違いがあるかもしれない。

今は受験シーズンであり、多くの人が勉強に苦しめられている筈だ。

その中でも、多くの人が、勉強の量をこなすことで競争に勝とうとしているように見える。

一日三時間の勉強を二百日続ければ六百時間である。有名大学、高校を目指している者はもっと勉強しているだろう。

そこで、もしも勉強の効率を三割上げることが出来れば、先程の例だと、トータル百八十時間もの時間を得することになる。

ちなみに、ここでは三割と述べたが、ほとんどの人がそれ以上の効果を感じるはずだ。

今からその方法を述べる。

まず、大切なことは、自分は頭が良いと思いつい込むことだ。例えば、同じ学力でも、今まで成績優秀だった者の方が、そうでない者よりもテストで点数が取れるものだ。

それは、自信があるかないかの差であり、自信を持っていないと脳のどこかでブレーキがかかってしまい、本来の力が出せないのだ。次に、約五十分ごとに休憩をとること。それ以上続けても、効率が悪くなってしまう。出来れば三十分程休むのが良い。

次に、魚や、大豆食品をよく食べる。脳の神経伝達物質の材料になるらしく、効率を上げてくれるはずだ。

次に、性交、またはそれに準じる行為をしないこと。やる気を司る物質を無駄に消費してしまう。

次に、程よく脳に刺激を与えること。私のオススメは、読書だ。特にホラー。恐怖は脳を活性化させてくれる。また、読書は脳を活性化させるだけでなく、読解力を身につけることが出来る。

私の師は、読書で読解力を異常に身につけていたため、受験勉強を一日三十分を二週間しただけで、私では到底受かることの出来ない学力の高い高校に受かっている。

読解力というのは全ての科目に必要なことであり、また、本で読んだことのある知識が偶然テストで役立つこともあるのだ。

次に、朝、太陽の光を浴びること。脳内物質に関わることだ。また、スッキリと目覚めることが出来る。

早めに寝て、朝の四、五時くらいから勉強するのも良いそうだ。

次に、睡眠をきちんと取ること。せっかく覚えた内容も、睡眠を取らないと脳が記憶してくれない。

また、海馬に長期記憶として記憶してもらうには、一度覚えた内容を、時間をあけて繰り返すのが良い。

次に文章を書くことだ。ただ、私は大学受験を前にして今現在文章を書いているのだが、このような時間のかかる文章を書く必要は無い。ただ、一日二分くらいの時間で、日記を書けばいい。

また、食べ物を噛むとき、よく噛む。空腹時には記憶力が良くなる。声にだし、目、耳、口、手で覚えると良い、等がある。

最後に、本格的に追い詰められた時の最終手段として、体感時間を延ばす、という方法がある。

自分にとって苦しい状況に陥るのだ。例えば、痛覚の鋭い場所に針を刺す、物凄くマズイ物を口に入れる、など。

だが、この方法は難しく、余程精神力の強い者にしか使えないと思う。

受験に落ちるくらいなら死んだ方がマシだ、と黙っていて且つ受験勉強を直前まで一切していなかった人等にしかオススメ出来ない。人間の脳は苦痛を排除するように出来ている為、これを実行するのは焼けた石をずっと握りしめるのと同じくらいの難しさだ。

以上で、この論文は終わりである。

効率の良い勉強方法について（後書き）

今気づきました。

本格的に追い詰められてる人って、こんな読んでる時間、ありませんよね。

都会と田舎の幸福率について（前書き）

小さい頃都会に住んでたらしい師匠が、

「あんな脳に悪い場所、二度と行かん！」

とか言ってたから僕は都会に偏見を持っています。

もしもム力つく内容が書いてあったなら、ごめんなさい。

都会と田舎の幸福率について

今回は、都会と田舎では幸福である確率が違う、という点に注目し、推測を述べる。

統計的に見た結果、田舎の方が都会よりも幸福である確率が高い、というデータがとれているのだ。

最初に、何故都会では幸福率が低いのか、という点を考察する。都会には人が多く、植物が少ない。そして人間は、他の人間がいると無意識のうちに気を張ってしまい、また、植物を見ると、無意識のうちにリラクセスするらしい。

よって、気づかないうちにストレスが溜まっているのだろう。また、都会には高い建物が多い。

高層ビルに住んでいる者は、そうでない者よりも自殺する可能性が高いのだが、高い位置に居るとするのは、それだけで脳に負担をかけてしまうのかもしれない。

次に、何故人が田舎から都会に移っていくのかについて述べる。若者の多くが、田舎よりも都会に住みたい、と思っている。

都会には、様々なものがあるからだそうだ。また、田舎よりも都会の方がカツコイイ、らしい。

人間の脳は、変化を望むように出来ているため、田舎の者が都会に憧れるのは仕方ないだろう。実際に、都会には様々なものが満ちている。

では逆に、都会の者が田舎に憧れるパターンについて述べる。都会に住む者の中でも、田舎に移りたい、と思う者もいる。

だが、それらの人々は既に都会で仕事に就いている場合が多く、田舎に移るのは難しい。

また、仕事に就く前の者も、様々な企業がある都会に住みたがる。実際、田舎より都会の方が平均給料は高い。

要するに、田舎の者は都会に行きたがり、都会の者は都会から離

れたくない、または離れられない。

現在、ファーストフードなどのカロリーの高い食べ物を好む者が多くいるが、それに似ているのかもしれない。

ファーストフードをよく食べる者はそれを中々やめられなく、若者はファーストフードを食べたがる。

更に言うなら、田舎はカロリーが低い野菜料理で、都会はカロリーが高い肉料理みたいなものである。

野菜は体に良いが味気ないと思う者が多い。肉は美味いが体に悪い。いや、量次第では体に悪くもないが。

とにかく、結論としては、この国では幸せよりも刺激を好む者が多い、ということだ。

まあ、平和な国ではそうなるのは仕方ないのだが。

自己を顧みない善行について

今回は、自己を顧みない善行について述べる。

世の中には、自分の命を犠牲にして他人の命を救う人間がいる。

ある生物学者は、このような行動の理由を、他人からの評価を自己を危険にさらしてでも得るためだ、と考えていた。

私も、その考えと似た考えを持っていた。人間に限らず、全ての生物の存在理由は、生きることと子孫を残すことのはずだからだ。

生物は生きる物と書く。生きていなければ生物ではない。

また、何の役にも立たない角や羽根を生やしている生物は、異性の気をひくためだけにそれらを生やしている。つまり、子孫を残すために。

生物の行動は、この二つを前提に決定される。

だが最近、私の考えが覆される出来事が起こった。あるラットを使った実験で、血の繋がっていないラットを、救えば自分のエサの取り分が減るというのに救ったという結果が出たらしいのだ。

ラットは他のラットを救ったところで他のラットからの評価を得ることが出来るわけでもない。

つまり、他のラットを救うことに、減ったエサ以上の価値があると判断したのだ。

ラットがこのような行動をとるのだから、ラットよりも複雑な脳を持つ人間が損得抜きに他人を救うのも有り得るのかもしれない。

生きるため、子孫を残すためでなく、ただ助けたかったから助けた。という酷く美しい理由が存在しているのだ。

私は今まで、善行と呼ばれるような行動をとる度に、他人の評価を得る為に労力を使ったのか。などと思っていたが、そうでないのかもしれない。

そう考えると、随分救われたような気になる。

しかし、日本では馴染みが無いかもしれないが、外国には貧しい

者達が大勢集まっている場所がある。そういつた場所では、生きるために他人を平気で蹴落とす者が大勢いる。

そういつた極端な例に限らず、自己が危険にさらされれば誰でも言動が荒くなるものだ。

優しい人間が、会社をクビになった途端に犯罪に手を染めるような人間になった例などいくらかもある。

そこで一つの仮説が浮かんできた。

追い詰められた人間は、生存本能みたいなものが働き、より自己のために行動するようになるのではないだろうか？

現代の人間は、命を危険にさらされることが少ないため生存本能が鈍っていて、自己を犠牲にするような行動をとるのではないか？

ラットの例も、研究所でエサが確実に与えられ、命を危険にさらされないと確信しているため、他のラットを救ったのではないか？

野生のマウスで実験した場合、結果は異なっていたのではないか？つまり、余裕のある個体のみが善行と呼ばれる行動をとれるのかもしれない。

まあ、人間とラットを同列に並べること自体が間違っているのかもしれないが。

自己を顧みない善行について（後書き）

ネズミだって、同じ星に生まれた仲間じゃないか。

まあ、僕はネズミの脳には興味がありませんが。
人間の脳皮質こそ、至高の部位です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7615y/>

論文シリーズ

2011年12月31日19時45分発行